

リーディングDXスクール事業【実践事例】

洲本市立加茂小学校(兵庫県)【指定校】

【取組内容】 スプレッドシートとチャットを活用した「自己調整学習」と「協働的な学び」

【事前準備】

- ・学習の手引きを作成する。ここには学習の進め方や情報収集、ルーブリック評価などを載せておく。
- ・事前にチャットのスレッドを作っておく(EX.12/10 かけ算④)
- ・チャットの返信機能を活用する。学習の手引きや関係するNHKforSchoolのURL等を返信として載せておく。
- ・宿題で児童に〈予習〉をさせる。内容は次回の授業の教科書を読むのみ。(余裕がある児童はAI問題作成アプリの問題を提出させる→専用のformを作成し二次元コードにし、スプレッドシートで回収。AI問題作成アプリのExcelにデータを貼り、インポートすることで児童が作成した問題になる)

【授業】

- ・授業用のスプレッドシートで課題を確認し、[めあて][マイゴール]をプルダウンから選択する。
- ※めあて=学習の目標、マイゴール=学習方法の目標(1人で・友だちと・先生と、まともはノートに・動画にするか選択)
- ・自己調整学習の開始。

- ・まともができた児童は自身のノートの写真を撮り、チャットに投稿。説明動画もチャットに投稿。

※説明動画はノートの写真をkeynoteに貼り、ライブカメラ説明しているところを画面収録する。

- ・チャットに投稿されたものやスプレッドシートに入力されたものは他者参照に活用。
- ・振り返りまで終わった児童は、適応問題やデジタルドリルで学習しておく。
- ・まともができてきたら一斉学習の形態にし、本時の授業の内容を教師主導で振り返る。
- ・適応問題を確認する。
- ・振り返りができた児童はAI問題作成アプリで作成した問題をみんなで解き、授業終了。

【児童】

- ・授業内容が理解できている児童は次の単元の見たり、デジタルドリルに取り組むなど、暇を持て余すことなく学習できる。また、自分が作成した学習動画を共有し友だちが参照することで「わかりやすい」などの感想があることで学習意欲向上と自己有用感を獲得することができる。

- ・友だちと取り組む児童は対話する中で問題解決しようとする。分からないことがあればチャットを活用し、他者参照することで、問題解決の足掛かりになる。

- ・先生と学習している児童は、一斉授業の形で学習する。まともに必要な時間などは児童が決め、自己決定させながら授業に取り組む。

